先天性神經病及精神病ノ遺傳

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38335

十全會雜誌　第十七卷第五號（第七十六號）　明治四十五年五月一日發行

原著及實驗

●先天性神經病及精神病ノ遺傳的關係（金澤醫學會演說）

金澤病院神經科　福田美明

遺傳、Erblichkeit ノ疾病ニ及ボス影響ハ醫學上ノ一問題ニシテ是ガ研究モ甚ダ盛ニ行ハル、所ナリトス、殊ニ神經病及精神病ハ其大多數ニ於テ遺傳ノ徵スベキ者タル事ハ世人ノ既ニ知レル所ナリトス、今是ヲ成書ニ徵スルニ精神病ノ七〇―八〇%ハ遺傳ニ關係ヲ有スル如ク記載セラル、ヲ例トセリ、彼ノ伯林ノ Ziehen 氏ハ遺傳ハ獨リ精神病ノミニ非ズ第一ニ精神症狀ノナキ神經衰弱、癲癇、「ヒステリー」、「ミグレイン」、脊髓病ヲ有セル時ニモ子孫ニ一種ノ影響ヲ及ボスヲ例トシ第二ニハ異常氣質例ヘバ法外ニ怜悧ナル人又ハ犯罪者、或ハ不充分ナル原因ニテ自殺スル人々ノ子孫ニ、第三ニハ酒客ノ子孫ニモ一種ノ影響ヲ及ボス事ヲ論ゼリ。

遺傳ノ意義　遺傳トハ尊族中ニ所謂吾人ノ血統ノ上行性則先代ニ一種ノ疾病又ハ異常氣質アリテ其子孫ニ疾病又ハ異常器質ヲ起シ易キ素質 individuelle Praedisposition ヲ與フルモノニシテ換言セハ psychopathisches oder neuropathisches Individuum ヲ與フルヲ精神病及神經病ノ遺傳ト稱スルモノトス然モ其素質ヲ遺傳スルニ當リテ強弱種々アルハ當然ニシテ Ziehen ニヨル時ハ感情的精神病及ビ性格ノ變狀者、酒客ニハ純粹ナル精神病ヲ起ス事多ク、先代ノ神經衰弱症、特異ノ氣質、老耄病、產褥性精神病等ニテハ子孫ニ慢性中酒病、癲癇、「ヒステリー」症ノ誘因トナリ感情的神經症ノ子孫ハ不堂性ニ陷リ易ク急性妄想狂ノ祖先ニハ同ジク妄想狂ヲ見ル事多シト稱セリ尙遺傳ハ精神上ノ變質徵候トシテ想像力ノ異常、多クノ夢ヲ見、或ハ錯覺幻覺等ノ Sinnestäuschungen ヲ生ジ或ハ色慾ノ異常發達又ハ減退、春機發動期ノ早熟及ビ遲延或ハ恐怖發作、精神ノ異常抑揚、壯年ノ自殺、强迫觀念、思慮ノ沈澱、悖德狂 moral insanity 道德上白痴或ハ好訴性妄想或ハ低能其他精神上ノ先天的神經病及精神病的素質ヲ附與スルト同時ニ肉体上ニモ一種ノ變質徵候ヲ與フルモノニシテ癲癇發作ヲ起シ或ハ半身ノ血管運動性變症ヲ來シ春機發動期ノ夜尿、步行言語ノ遲延ヲ來ス等其証ナリト云フ

遺傳ノ種類　以上ノ如キ遺傳素質ハ其遺傳ノ種類ニモ亦差別アリ例ヘバ父又母ノ一方ノミニ疾病アリテ子孫ニ遺傳スル場合則一側遺傳 einseitige Belastung ナル事アリ然シテ此一側遺傳中父母ヨリ直ニ子息ニ遺傳スル

directe Vererbung 直接遺傳ト祖父母ノ疾病ガ孫ノ時ニ及ビテ現レ來ル間接遺傳 indirecte Vererbung トニ區別スルヲ得ベシ、第二ニハ極祖先ノ者ガ後世ニ至リテ表ハル、祖先遺傳 atavistische Vererbung ト第三ニハ血統ノ直線ニ來ラズシテ叔父伯母等ノ疾病ガ從兄弟ノ所ニ至リテ現出スル kollaterale Vererbung 傍系遺傳ト第四ニハ兩親ノ系統共ニ病疾アリテ子孫ニ傳ハル場合此時ニハ大抵病勢ノ增惡ヲ來スヲ以テ蓄積遺傳 gehäufte Vererbung ト稱スルモノト第五ニハ病勢ガ代ヲ逐フニ從ツテ增惡スル進行性遺傳 fortschreitende Vererbung トニ分ツヲ得ベキナリ、

遺傳ノ法則　精神病及神經病ノ遺傳ニハ種々ノ學說存在シテ同種遺傳說ヲ有スル者ト變形遺傳說ヲ有スル者トアリ各說各々多クノ贊成者ヲ有セリ、前說ハ有名ナル彼ノ Darwin'sches Gesetz ニシテラマーク、ヘツケル、スペンサ、ネゲリー、アイメル、ウヰルヒヨウ、シヤリ、ハルボルラ、フガステル氏等ガ此說ヲ信ゼルモノ、如シ、後說ハ Mendel's law ニシテ遺傳ニハ同種ノ疾病ヲ發スル事アルモ又異種ノ疾病ヲモ發スルモノナリトノ erbliche Transformation 所謂 Polymorphismus ヲ唱道シ是ニハモーレンウ、モーレル、エスキロール、グリシンゲル、リボー、クラフツト、エビンク、チーヘン、ストリユンペル、グラスマン等ハ此說ヲ有セリ以上ノ如ク諸說ノ分ル、所以ハ則チ吾人生物ノ遺傳ハ生殖細胞ニヨリテ始ルモノニシテ其本源ハ生殖細胞ノ核中ニアル「クロモソーマ」內ニ含有セラレタル顆粒中ニ存ス故ニ其分体ニ當リテ全ク母細胞ト等シク二個ノ娘細胞ニ配布セラレ順次分裂シ行クモノナルガ故ニ總テノ身体細胞中ニハ生殖細胞ト同價同量ノ遺傳質ヲ含有ス故ニ懷孕セル細胞核中ニハ生殖細胞ノ二倍量ノ遺傳質ヲ包含スル事トナルベキモ實ハ其分量ニ變化ナキハ是則チ Reductionstheilung ニヨリテ卵ガ懷孕前既ニ極体形成ヲナシテ遺傳質ノ陪加ト核ノ增大トヲ抑制ス此 Reductionstheilung ヨソ前述ノ遺傳學說ノ分ル、基因ニシテ其分体タルヤ「カリオキネゼ」ト異ナリテ「クロモソーマ」ハ「スピンデル」ノ兩端ニ數ニ於テ二分シ錐体ノ極ニ轉ジテ二個ノ娘核ヲ作リテ一個ヲ放棄スルヲ以テ卵核質ハ母核ノ半量トナルナリ精細胞ニ於テモ又同一現象ヲ有シ極体ハ烏有ニ歸シテ母核質ノ半量ノ精核ト化シテ前ノ半量ノ卵核ト結合スルヲ以テ何回生殖スルモ細胞核質ハ分量ニ於テ何等變化スル事ナシ然シ毎生殖毎ニ遺傳種子ハ父及ビ母ノ兩系ヨリ來ルヲ以テ如上ノ分体ヲナスニ當リテ分量ニ於テハ正シク兩分セラルモ其配合ハ均一ナル事能ハザルヲ以テ遺傳質ノ性質ハ毎生殖毎ニ多少變化スルモノトス金子先生ノ說ニヨル時ハ一個体ノ總テノ身体細胞ハ分量ニ於テモ性質ニ於テモ全々同一ノ遺傳種子ヲ有シ是ヲ先者又ハ後者ノモノニ比スレバ分量ニ於テ同一ナルモ性質ニ於テハ多少ノ相違アリ此ノ相違ハ血統ヲ遠隔スルニ從ツテ愈增加スルモノナリト尙ホ遺傳ノ法則ニ關シテハ本年五月亞米利加ノ神經學雜誌ニ紹育ノ King Park State ノ病院醫 Cannon 及 Rosanoff 氏ノ二名ガメンデル氏法ヲ改良シテ一種ノ公式ヲ案出シテ發表セリ同氏等ハ紅彩ノ色ニヨツテ其遺傳ノ樣子ヲ研究セシ者ニシテ六ツノ種類ニ分類セリ、其大要ヲ抄錄セバ

一、兩方ノ親ガ神經質ノ時ハ全部ノ小供ハ神經質ナリ

二、一人ガ健康ナルモ其親ガ神經質ニシテ母ガ亦神經質ナル時ハ半分ノ子兒ハ神經質ニシテ半分ハ健康ナリ然シ其健康者モ子孫ニ神經質ヲ遺傳シ

三、 一方ノ父ガ健康ニシテ其両親ガ又健康ナルモ母ガ神經質ナル時ハ總テノ子供ハ健康ナルモ子孫ニ神經質ヲ遺傳シ得

四、 両方ノ親共健康ナルモ両方共一方ヨリ神經質ノ遺傳アル時ハ子兒ノ四分ノ一ハ健康ニシテ又子孫ニ神經質ヲ遺傳セザルモ他ノ四分ノ二ハ遺傳ヲ有シ後ノ四分ノ一ハ神經質ナリト

五、 両方ガ健康ニシテ一方ガ神經質ノ遺傳ヲ有スル場合ハ總テノ子供ハ健康ナルモ半分ハ神經質ノ遺傳ヲ有ス

六、 両方共健康デ両方共遺傳ナキ時ハ總テガ健康ニシテ遺傳ナシト又變形遺傳說ニ關シテハ彼ノ Morel 氏ハ左ノ式ヲ示セリ

I	Generation.	sittliche Entartung
II	〃	Ausschwerfung.
		Neigung zu Apoplexie, Neurosen, Alkoholismus, Paralyse.
III	〃	Psychosen, Selbstmord, verbrecherische Triebe.
IV	〃	Angeborener Schwachsinn, Entwicklungsstörung, Missbildung, Aussterben der Familie.

則チ漸次變形增惡シテ終ニハ一家滅亡ノ不運ニ陷ルモノトス。一千九百〇二年十一月西部獨逸精神病醫會席上ニ於テ Krauss 氏ハダウヒン及メンデル氏法則ヲ說キ最後ニ Heidelberg 及ビ Kennenburg 病院ノ精神病者ヲ調査シ報告セル所ニヨレバ

先代躁鬱狂	七人	子孫十人中ニ	
內	同種病(躁鬱狂)	四人	四〇%
	異種病(早發痴病)	六人	六〇%
先代早發痴病	十三人	子孫十五人	
內	同種病(早發痴病)	十四人	九三%
	異種病(躁鬱病)	一人	七%
先代鬱憂病	一人	子孫一人	
	異種病(早發痴病)	一人	一〇〇%

ナリシト尙兄弟姉妹從兄弟ニ就キテモ調査シ血族ノ關係親密ナル親子間ニテハ同種類ノ精神病稍ヤ多キモ遠ク距リタル間ニハ異種ノ病型ヲ遺傳スル事多シト故ニ感動性精神病ハ必ズシモ感動性精神病ヲ遺傳スルモノニ非ズ且ツ子孫ノ精神病ハ先代ノヨリモ比較的幼年ニシテ發生スル事多ク經過及ビ豫後モ亦不良ナル事多シトテ遺傳ノ Polymorphismus 則チ erbliche Transformation ヲ証明セリ、ドクトル、フエステル氏ハ左ノ興味アル實例ヲ報告セリ一七四〇年獨逸ノ一地方ニ一婦人アリ酒客ニシテ然モ盜癖者デ浮浪ノ生活ヲナシテ一生ヲ送リシガ其子孫ハ合計八三四人ニシテ其中七〇九人ハ行末ヲ詳ニスル事ヲ得タリ今其ヲ見ルニ一〇六名ハ私生兒ニシテ一四二名ハ氣兒トナリ六四名ハ救貧院ノ厄介者トナリ、百八十一名ノ賣春婦ヲ出シ七十六名ハ犯罪者ニシテ其中七名ハ最モ慘極ナル殺人犯ナリシト

是ガ爲ニ國家ノ費消セシ監獄費救助費ハ合計總格五百万「マルク」實ニ我ガ日本ノ貳百五拾萬圓ナリシト、其他リユエル Rueer フレミング Flemming 氏ハ父母ニ何等遺傳スベキ者ナキモ酩酊中ノ交接ニヨリテ生ゼシ子ハ白痴トナル事度々ナリト云ヒ、ゾルリイル氏ハ三百ノ白痴兒ヲ調査シテ百四十五人ハ兩親ノ酒客ナル事ヲ知リ、クラフトエビング氏ハ妄想病ニハ病累ナクシテ來ル事ナシト稱シ、ゾルリイル Sollier 氏ハ中酒狂ノ家族三百五十ヲ檢シテ五九、七一分（二〇九例）ハ遺傳ヲ証明シ得ザリシモ四二、二九分（一四一例）ハ遺傳ヲ証明シ其中百〇六例ハ祖先ノ中酒性精神病ヲ其他ノ三十六例ニ神經中樞ノ疾病ヲ証明セリト殊ニ嗜酒狂（Dipsomanie）ニ至リテハ家族中必ズ同病型ヲ有スルモノナリト迄稱セラル、モノトス、又精神病ノ大部分ナル早發癡病及躁病等モ八〇％ハ遺傳ニ基ツキ癲癇ノ十分ノ九ハ遺傳ニ關係シ其中四分ノ一ハ祖先ニ癲癇ヲ有シ殘リ四分ノ一ハ兩親ノ酒客ニ基因スト稱セラル其他コルレル氏ハ百人中七十八人二分ハ―ゲン氏ハ三十三人二分コツホ氏ハ七千七百五十人中遺傳ノ三十五％ヲ証明シボリツツ氏ハ四十一％クレペリン氏ハ三十乃至四十％ビンスワンゲル氏ハ六十乃至六十五％ヲ証明セラレタリ我國ニテハ斯界ノ先覺者榊先生ハ入院患者ノ五十九人ニ遺傳ヲ証明セラレ吳博士ハ自著ニ六十七％ノ實驗ヲ提シ門脇先生ハ七十％ノ遺傳素因ヲ認メラレタリ、コルレル氏ハ遺傳ヲ病者ノミニ非ズ健康ナル人ニモ調査セシ結果百人中五十九名則チ五十九％ノ遺傳素質者ヲ証明セラレタリト、本年八月（一九二一年）獨逸ボン府ノ學校醫エフ、アシエミツト氏ハ補助學校生徒百七十三名ニツイテ精細ナル檢査ヲ遂ゲタル後其成蹟ニ基ツキテ精神低能ノ原因ヲ左ノ如ク述ベタリ

一、遺傳ニヨルモノ、二、妊娠中及ビ分娩時ニ際シテ起ルモノ、三、産後ニ起ルモノ、然シテ其各項ニ就キテ實例ヲ擧ゲタル中一二ニ相當スル者ヲ轉記スル時ハ左ノ如シ

一、遺傳素因ヲ有スルモノ

イ、血族ニ精神病及痴呆アルモノ　五名
ロ、癲癇　三名（父、祖父、兄弟）
ハ、神經病　十一名（父七名、母四名）
ニ、精神低格　二十六名（父十名、母十六名）
ホ、酒客　二十名（父十六、祖父五、母二、兩親共二）
ヘ、家族關係不良　六名
ト、犯罪者　十三名

二、妊娠及分娩ニ際シテノ事故ニヨリ精神低格ノ原因ト認ムベキモノ

イ、妊娠中外傷ヲ受ケタルモノ　三名
ロ、妊娠中母ノ劇烈ナル感動　五名
ハ、妊娠中ノ梅毒　一名
ニ、難産　九名

是ヲ要スルニ祖先及兩親ノ酒客、精神病神經病及兩親ノ感動ガ大ニ關係セルヲ知ルベキナリ

予ハ石川縣金澤病院神經科ノ入院患者（精神病）及外來患者中ノ精神痴鈍者、聾啞者及神經衰弱患者「ヒステリー」患者ノ遺傳的關係ニ就キテ二三ノ統計ヲ試ミタリ勿論我科日々多數ノ患者ヲ治療シテ多忙ナルト傍ラ既往症ノ主任ガ其日ニヨリテ異ナルトニヨリテ遺傳ノ明記シアルモノヽミヲ計上

シ記載ナキモノ及ビ不明瞭ノ者ハ是ヲ採用セザリシ者トス且ツ入院患者ノ側ニ於テハ再入院者ハ是ヲ除去セルモノナリ、サレバ實際ノ遺傳關係ハ本表以上ナルモ降ラザル事ヲ豫言シ得ルモノトス、尙ホ本年度ノ分モ一月一日ヨリ十一月末日迄ノ者ニシテ一年間ノ統計ニ非ラザル事ハ深ク遺憾トスル所ナリト雖モ本調査ノ遺傳ニ關係スル所多キヲ示シ得バ幸甚ノ至リナリトス

第一表

石川縣金澤病院精神病入院患者ト遺傳的關係

總入院患者數	一二五（四十四年一月一日ヨリ十一月末日迄）		
男子	一〇〇		
遺傳ヲ有スル者	七一	七一％	
兩親酒客	三三	四一・四％	
精神病	一三	一八・三％	
神經病	二五	三五・二％	
遺傳不明（調査不全ヲモ含有）二九			
女子	二五		
遺傳ヲ有スル者	一九	七六％	
酒客	六	三一・五％	
精神病	四	二一％	
神經病	七	三六・八％	
血族結婚	二	一五・二％	
遺傳不明（調査不全ヲモ含ム）	六		

此表ニヨル時ハ精神病者ノ遺傳ハ少クトモ七十一乃至七十六％以上ヲ有スルモノニシテ諸家ノ七〇―八〇％ヲ證セシニ稍近キヲ見ル亦遺傳ノ女子ニ多キ事モ此ノ統計ニ徵シテ推測シ得ベキモノトス

第二表

石川縣金澤病院神經科精神痴鈍者ノ遺傳的關係

	明治四十三年度	同四十四年度（一月一日ヨリ十一月末日迄）
總數	一七	一九
後天性（腦膜炎外傷後）	四	〇
先天性	一三	一九
遺傳ヲ有スル者	一一（八四％）	一五（七八・九％）
酒客	八	六
血族結婚	一	九
神經病	二	〇
遺傳不明（調査不全）二		四

則チ先天性白痴又ハ低能、精神薄弱者ノ八〇％以上ニ遺傳ヲ證明セリ

第三表

同聾啞者ノ遺傳的關係

	明治四十三年度	同四十四年度（一月一日ヨリ十一月末日迄）
總數	九	一〇
後天性	二（腦膜炎中耳炎後）	四
先天性	七	六
遺傳ノ記載アル者	四（五七％）	六（一〇〇％）

酒客	一	神經病	一三一人
血族結婚	三	遺傳ノ不明ナルモノ	三〇七人
遺傳ノ不明ナル者	三	女子	七六人
	四	遺傳ノ判明セルモノ	三六人
	〇	酒客	一五人
		神經病	二一人
		遺傳ノ不明ナルモノ	四〇人

前表ニヨル時ハ聾啞者ノ大多數ハ遺傳ヲ證明シ殊ニ注意スベキハ血族結婚ノ既往症ヲ有セル子孫ニ多キ事ナリトス予ノ一例ノ如キハ從兄弟同士ノ結婚者ニシテ三人ノ擧子中長男ト第三子ガ聾啞者ニシテ中央ノ一子ハ非常ニ怜悧ナリト是實ニ吾人專門醫ヨリ見ル中ハ健康ナル第二子モ確カニ「アブノルム」ト認ムベク殊ニ興味アルハ此ノ母ガ以前同母ノ從兄弟ト結婚セシ折擧ゲシ一子ガ聾啞ナル上ニ盲目ナリシト云フ一事ナリ是ヲ要スルニ血族ノ近キ程重症ナリシ一例ナリトス血族結婚ノ遺傳關係ニ關シテ諸學者ハ多少之ヲ認ムル所ナリトス昨年二月國家醫學會雜誌ニ於テ中村讓氏ガ血族結婚ノ子孫ニ及ボス影響ノ題下ニ飛驒白川村ノ實例ヲ擧ゲテ血族結婚ノ人ノ信ズルガ如ク有害ノモノニ非ザルト稱シ反テ人種改良上健全ナル血族ノ結婚ハ善良ナル方法ナリト論ズル人スラ出デ來リシモ是大ニ研究スベキ大問題ニシテ一朝一夕ノ能ク解決スベキニ非ザルヲ信ズ

第四表

金澤病院神經科ニ於ケル神經衰弱患者ノ遺傳的關係

神經衰弱患者總數　五七四人（明治四十四年一月一日ヨリ十二月五日迄外來患者一千六百九十二人中）

男子	四九八人
遺傳ノ記載アルモノ	一九一人
酒客	六〇人

同金澤病院神經科ニ於ケル歇私的里患者ノ遺傳的關係（外來總數千六百九十二人ノ中）

歇私帝里患者總數	三六七人
男子	一八〇人
遺傳ノ判明セル者	九二人
酒客	三一人
血族結婚	一人
神經病	六〇人
遺傳ノ不明ナル者	八八人
女子	一八七人

本統計ハ勿論神經衰弱症ノ總テノ種類腦性、脊髓性、反射性、內臟性、脈管性神經衰弱ヲ合算セルモノナリト雖モ獨リ「ヒステロノイラステニー」ハ其性質上「ヒステリー」ニ加入シテ本表中ニハ加入セザルモノトス以上ノ遺傳判明數ヲ神經衰弱患者數ニ比セバ實ニ三十九・五％ニ該當スルモノトス

第五表

金澤病院神經科ニ於ケル歇私的里患者ノ遺傳的關係

前表ニヨル時ハ聾啞者ノ大多數ハ遺傳ヲ證明シ殊ニ注意スベキハ血族結婚ノ既往症ヲ有セル子孫ニ多キ事ナリトス予ノ一例ノ如キハ從兄弟同士ノ結婚者ニシテ三人ノ擧子中長男ト第三子ガ聾啞者ニシテ中央ノ一子ハ非常ニ怜悧ナリト是實ニ吾人專門醫ヨリ見ル中ハ健康ナル第二子モ確カニ「アブノルム」ト認ムベク殊ニ興味アルハ此ノ母ガ以前同母ノ從兄弟ト結婚セシ折擧ゲシ一子ガ聾啞ナル上ニ盲目ナリシト云フ一事ナリ是ヲ要スルニ血族ノ近キ程重症ナリシ一例ナリトス血族結婚ノ遺傳關係ニ關シテ諸學者ハ多少之ヲ認ムル所ナリトス昨年二月國家醫學會雜誌ニ於テ中村讓氏ガ血族結婚ノ子孫ニ及ボス影響ノ題下ニ飛驒白川村ノ實例ヲ擧ゲテ血族結婚ノ人ノ信ズルガ如ク有害ノモノニ非ザルト稱シ反テ人種改良上健全ナル血族ノ結婚ハ善良ナル方法ナリト論ズル人スラ出デ來リシモ是大ニ研究スベキ大問題ニシテ一朝一夕ノ能ク解決スベキニ非ザルヲ信ズ

第四表

金澤病院神經科ニ於ケル神經衰弱患者ノ遺傳的關係

神經衰弱患者總數　五七四人（明治四十四年一月一日ヨリ十二月五日迄外來患者一千六百九十二人中）

男子	四九八人
遺傳ノ記載アルモノ	一九一人
酒客	六〇人

遺傳ノ判明セル者　九一人
酒客　一七人
神經病　七四人
遺傳不明ノ者　九六人

男女合計セル遺傳判明者ハ該病者總數ノ四九・八%ニ相當ス是ヲ神經衰弱患者ニ比セバ歇私的里ハ遺傳ノ%數大ニシテ約五十%ノ遺傳ヲ證明セルモノニシテ亦一方「ヒステリー」ハ神經衰弱症ト異ナリテ一種ノ先天性精神變質病ニ屬スルテフ學說ヲ確ムルノ一手段トモナルヲ得ベキナリ今一ツ前表ニ於テ注意スベキハ歇私的里ナル疾病ハ古來婦女子ニ限ラレタル疾病ノ如ク考ヘラレ又ハ男ノ歇私的里ハ在ルトスルモ極少數ノ者ト思考セラレシガ當科ノ例ニ徵セバ男子ニモ亦本病ノ割合ニ多キヲ知ル事ヲ得ベク是レ檢査法ノ精密ナルニ從ツテ益々其數ヲ增加スベキヲ信ズ勿論女子ハ男子ニ比セバ健康人ト雖モ稍變質性ノ者ニ屬シ從テ婦女ニ本病ノ多キハ當然ノ事ト云フベシ

以上ノ諸統計ハ單ニ遺傳ノ明記シアル者ノミニ就イテ調査セシモノニシテ遺傳不明者ノ中ニモ尙ホ大多數ノ遺傳歷ヲ有スル者ノ存スルハ明カナル事柄ニ屬ス故ニ前述ノ諸統計ニヨリテ得シ%數ハ增加スルモ減ズルモノニ非ラザルヲ見ルベキナリ故ニ精神病者ノ八十%ハ遺傳ヲ有セルモノナリトハ小生ノ例ニ於テモ亦信ズベク殊ニ先天性白痴或ハ聾啞者ニ於テハ全々遺傳ヲ證明シ得ルヲ稱シテモ過言ニ非ズシテ殊ニ兩親及祖父母ノ飮酒ハ子孫ニ影響スル事大ニシテ實ニ恐ルベキモノタル事ヲ知ルベク血族結婚ハ少クモ善良ナル素質ヲ遺スト同ジク一方嫌ムベキ方面ニ向ツテモ同シク遺傳スベキヲ得ベク萬事ハ惡化シ易キニ徵シテモ血族結婚ノ度々精神病及神經病ノ素因ヲ與フルヲ信ズベキモノトス

結論　以上ノ諸大家ノ說ニヨリ亦予ガ小統計ニヨリテモ精神病及神經病ハ其原因ヲ遺傳ニ負フ所多ク殊ニ酒精濫用及ビ血族結婚ノ遺傳上有力ナルヲ認ムル者トス。

希望。筆ヲ擱クニ當リ最後ニ一言自己ノ希望ヲ述ベテ大方諸賢ニ訴ヘント欲ス他ナシ今ヤ世運ノ發達人口ノ增加ハ生存競爭ノ激烈ヲ加ヘ身体上ニ精神上ニ多大ノ影響ヲ來シテ精神病及神經病其他ノ疾病ハ日ニ月ニ多キヲ加ヘ小ニシテハ一家ヲ破リ大ニシテハ國家ヲ誤マルニ至ラントス是レ吾人醫家ノ寒心スベキ事柄ニシテ是ガ前後策ヲ講ジ是ガ救濟ヲ成スハ目下ノ急務ナリト信ズ願ハクハ世ノ先覺者ヲ以テ任ズル同業諸士深ク此点ニ留意セラレ一般人士ニ說キテ酒精ノ濫用ヲ誡ムルト同時ニ不健全ナル血族結婚ヲ矯正シ健全ナル家族ノ血流ヲ頒チテ病源ヲ洗ヒ去リ幸福ナル家庭ヲ形成スル樣盡力セラレン事ヲ。

終リニ恩師松原博士ニ對シテ懇篤ナル敎示ヲ垂レ給ヘ且ツ我科ノ經過錄及患者ヲ利用シテ本演說ヲナスヲ許容シ給ヒシ好意ヲ深謝ス。（明治四十四年十二月九日稿）

